

も い 森 林 の 話

第 35 話

空知森林管理署

土屋 美月

若手職員のコーナーです

早いもので、空知森林管理署に勤めて3年が経過し、4年目に突入となりました。

東京都の出身ゆえに、豪雪地帯である岩見沢の積雪量に圧倒されたものの、スノーボードの魅力に取りつかれ、冬の終わりは寂しく感じます。

今回は、私が多くの人と携わせていただいた“森林環境教育”の話をしたいと思います。

【様々な森林環境教育】

皆さま、“森林環境教育”をご存知でしょうか。簡潔にいきますと、「森林や木について幅広く学ぼう!」といった活動のことです。

森林環境教育は、小中学校等の教育機関、放課後等デイサービス、就労継続支援施設など対象者の年齢や要望も多岐に渡るため、当署では対象者に合わせたプログラムを検討・実施してきました。

ここからは、その一部をご紹介します。

事例①【遊びながら学ぶ】

小学校の低学年に向けたものです。

右のようなラミネートを使用した森林クイズや測定器具（輪尺）を使って木を測る体験等をするプログラムです。



事例②【体験型学習】

高校2～3年生に向けたものです。

防風保安林（畑や家を風から守る森林）の効果

について理解してもらい、整備の一部を担う植樹を体験するプログラムです。

事例③【森林を感じる】

就労継続施設の通所者（お年寄り）や保育園児に向けたものです。

森林を散策しながら、バードコール（鳥の鳴き声をする木のおもちゃ）を鳴らしたり、葉っぱを使ったじゃんけんをするプログラムです。



ここで紹介したほかに、「フィールドビンゴ」やカードを使ってゲーム感覚で林業について学べるものなど、一口に森林環境教育といっても多種多様です。

【森林環境教育の更なる普及に向けて】

私は、森林環境教育とは直接関係しない業務の担当でしたが、若手リーダーとして携われたことは、とても有意義な経験となりました。

森林環境教育にご興味のある方は是非、お近くの森林管理署を訪ねてみてください。

【最後に】

普段、あまり意識しないと思いますが、森林、木材は私たちの生活を支えており、欠かせない存在です。改めて、私も、その一役を担えていると思うと、日々の業務にも一層、力が入ります。

森林・林業へ興味を持って下さる方が増えることを祈りつつ、私の「森林の話」を締めくくらせていただきます。

ご興味のある方は是非、以下もご覧ください。

林野庁Webサイト：国有林野事業業務研究発表会

https://www.rinya.maff.go.jp/j/gyoumu/gijutu/kenkyu_happyo/R6/R6_happyo.html#fureai